

ごみの行方を追いかけてよう

燃えるごみの リサイクル

小平・村山・大和衛生組合→二ツ塚処分場（エコセメント化施設）

ごみは毎日の生活で必ず発生します。皆さんの家庭や商店などから出たごみはどういう過程を経て、最終的にはどうなるのでしょうか。燃えるごみに注目して流れを追ってみましょう。

小平・村山・大和衛生組合



各集積所に集めたごみは、ごみ収集車に乗せられ小平・村山・大和衛生組合に運ばれます。ここでは、3市（小平市・東大和市・武蔵村山市）で共同運営する清掃工場で、中間処理施設とも呼ばれます。



ごみ収集車から、ごみをごみピットに投下します。

ごみピットは小学校のプール約10杯分の容積があり、ごみクレーンによって安定して燃えるように混ぜ、焼却炉の入り口まで運びます。



ごみクレーンはピットの上にある操作室でコントロールされ、1回で約1トンのごみをつかむことができます。コンピューターによる自動運転も可能です。



金属類を取り除いた焼却灰

焼却灰の中に混入している金属類を取り除きます。



その後、大型のダンプカーに乗せ、日の出町にある二ツ塚廃棄物広域処分場に搬入します。

えんとつフェスティバル2011



見学ミニツアーやフリーマーケット、模擬店、生バンド演奏などがあります。
とき 10月8日（土）午前10時～午後3時
（雨天の場合は9日（日）に順延）



その後、焼却炉で850℃以上の高温で焼却されます。

こもれびの足湯



小平・村山・大和衛生組合内にある、地下水をごみ焼却炉の余熱で温めた足湯です。
時間 午前9時30分～午後4時
定休日 木曜日

問合せ 小平・村山・大和衛生組合 ☎042 (341) 4345

二ツ塚廃棄物広域処分場

小平市を含む多摩地域25市1町、約400万人分の焼却灰は、日の出町にある二ツ塚処分場に運ばれます。この処分場は、東京たま広域資源循環組合が管理・運営しています。



二ツ塚処分場に搬入された焼却灰は、すべてセメントとして生まれ変わります。これをエコセメントと言います。

以前は埋め立てていた焼却灰ですが、平成18年度からエコセメント化事業を開始し、それ以降、この処分場に埋め立てているのは不燃ごみだけです。このことにより、当初は平成10年1月から16年間で処分場が満杯になる予定でしたが、30年間以上利用することができるようになる見込みです。

エコタローベンチ



小平市民文化会館（ルネこだいら）の正面玄関の脇に、エコセメント製ベンチ（エコタローベンチ）が設置されています。エコタローとは、エコセメント事業のシンボルマークです。お立ち寄りの際には、ぜひご利用ください。



東京たまエコセメント化施設

焼却灰は中間処理施設同様、一度ピットに搬入され、クレーンによって混ぜられます。搬入された焼却灰は飛散しないように湿らされているため、巨大な乾燥機に入れ乾燥させます。



乾燥後、焼却灰の中の鉄やアルミ類を取り除き、粉碎した石灰石などと混ぜてエコセメントの原料を作ります。これを焼成炉（キルン）で1,350℃以上の高温で焼いてクリンカ（エコセメントの原料）を製造します。



焼成炉（キルン）の様子

その後、クリンカに石こうなどを加え粉碎し、エコセメントが出来上がります。

エコセメントは通常のセメントと同様に扱えるため、出荷後は皆さんの身近にあるさまざまな資材や製品になります。



日ごろ何気なく捨てていたごみ（燃えるごみ）は、埋め立てられずエコセメントにリサイクルされ、再びわたしたちの身近な場所に戻ってきます。

谷戸沢廃棄物広域処分場

二ツ塚処分場の隣にある谷戸沢処分場は、昭和59年から平成10年まで埋め立てが行われていました。現在でも、周辺環境への影響調査など徹底した維持管理を行っています。また、自然環境の回復も進み、オムラサキやカヤネズミなど貴重な動植物の姿を見ることができま



す。谷戸沢処分場は、埋め立て地の自然をできるだけ回復するよう草刈りの時期を決めるなどさまざまな工夫をしています。

谷戸沢処分場は、埋め立て地の自然をできるだけ回復するよう草刈りの時期を決めるなどさまざまな工夫をしています。

今後もできるだけ環境への負荷を減らすため、わたしたちはよりいっそうのごみの分別や減量に取り組む必要があります。

問合せ 東京たま広域資源循環組合 ☎042 (385) 5947

